神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
144

【神秘学ポエジー〜風遊戯 第 288集】 photo ヴァージョン

photopos 3576-3600

《2024.6.23〜 2024.7.17》

神秘学遊戯団

☆photopos-3576　2024.6.23

知ることはむずかしい

知ろうとするならば
まず知らないでいることだ
知らないでいることで
はじめて知ることができる

信じることはむずかしい

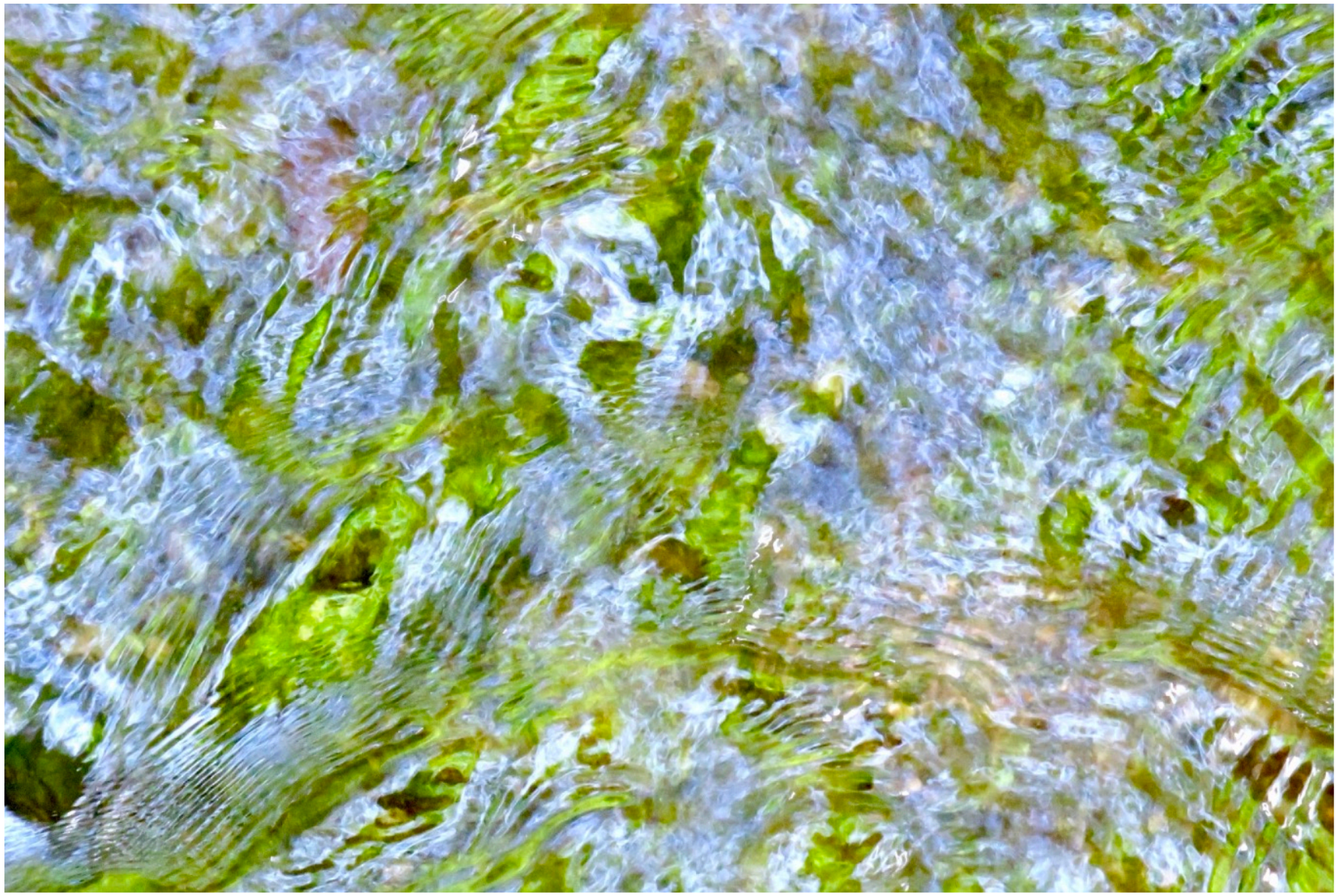
信じるならば
まず信じないことだ
信じないことで
はじめて信じることができる

現実を生きることはむずかしい

現実を生きようとするならば
まず現実に呑まれないことだ
現実に呑まれないことで
はじめて現実を生きることができる

理想をもつことはむずかしい

理想をもとうとするならば
まず理想の形にとらわれないことだ
形にとらわれないことで
はじめて理想をもつことができる



愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3577　2024.6.24

作られたものには
見えない手が
潜んでいる

その手を知るために
作られたものにふれる

記された言葉には
見えない言葉が
潜んでいる

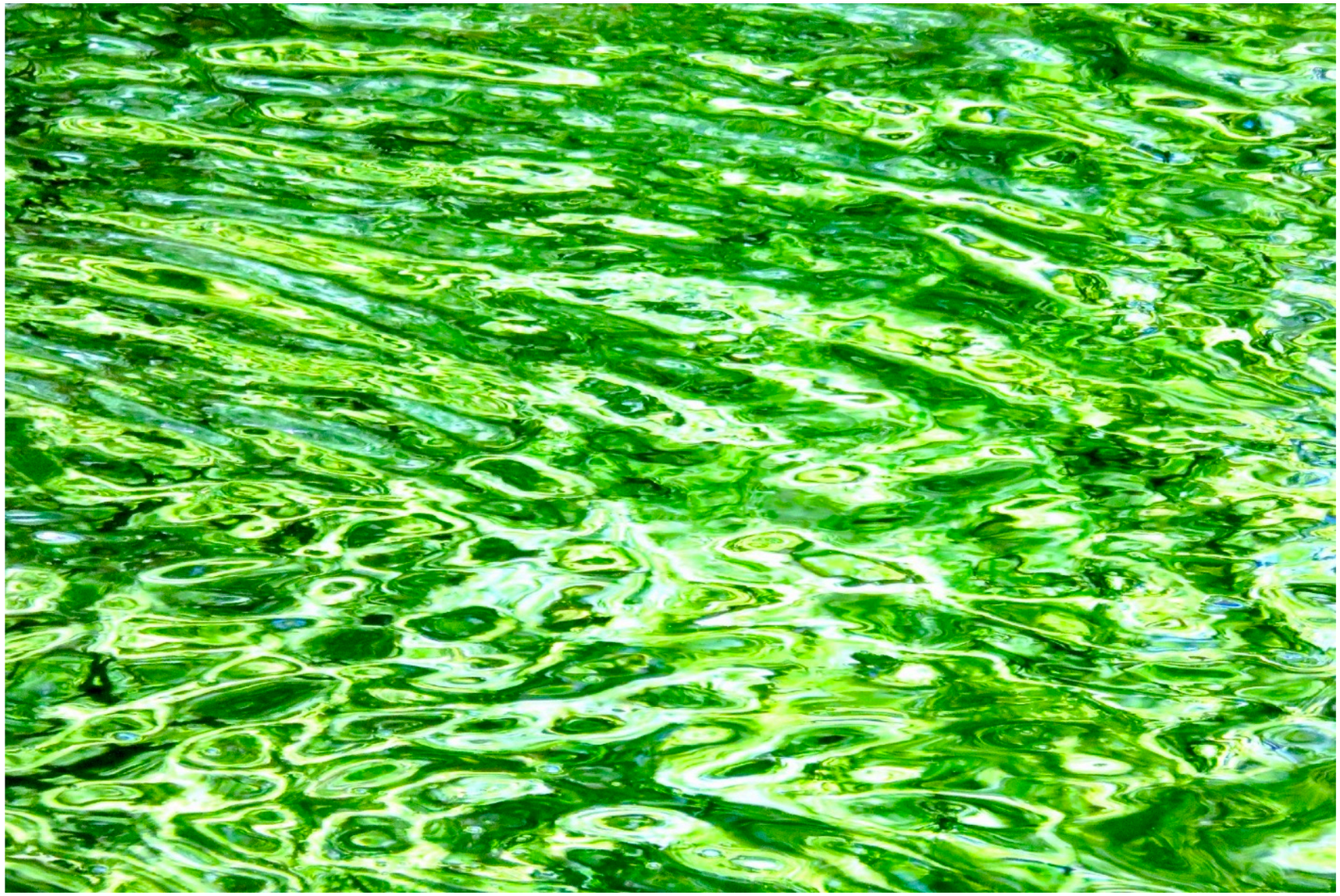
その言葉を知るために
記された言葉を生きる

物語られた私には
見えない私が
潜んでいる

その私を知るために
物語られた私を遊ぶ

生きられた世界には
見えない世界が
潜んでいる

その世界を知るために
生きられた世界を踊る



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3578　2024.6.25

いまどこにいるのか

蠅取り壺のなかならば
出口を探し
火宅で遊んでいるならば
火の外に逃れるのが先決だが

救いがないのは
じぶんのいるところが
わからないとき
わからないことにさえ
気づけないときだ

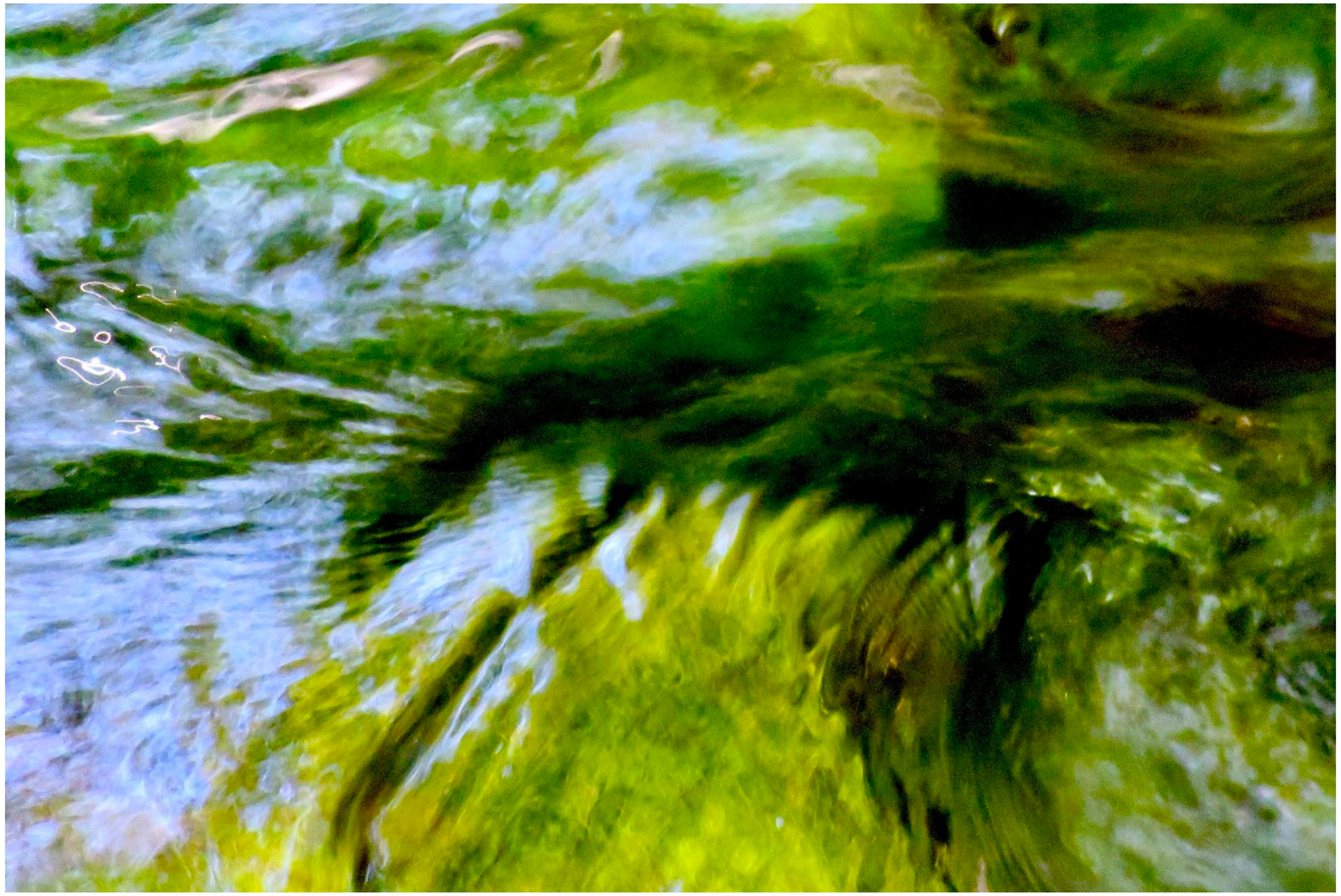
そこは蠅取り壺のなかだ！
そういわれても
火に囲まれている！
そう警告されても

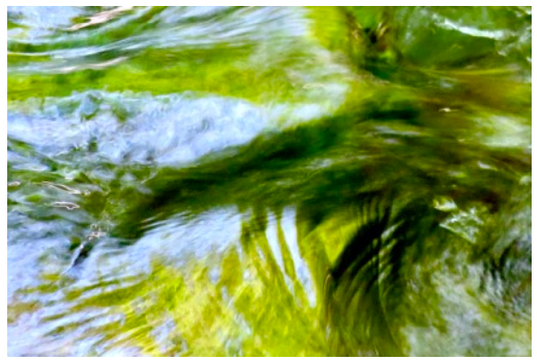
その世界が世界だと教えられ
それを信じているとき
外の世界は見たくない

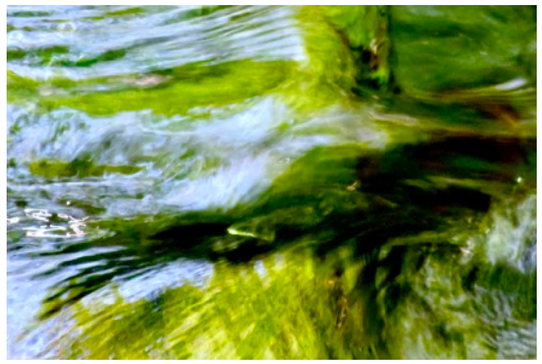
チューニングが変えられず
外のない世界から
どうすれば逃れられるのか

たとえ逃れられたとしても
新たに固定されてしまったところに
囚われないためには
どうすればいいのか

歩いたところは道になるが
歩いた道もやがては失われ
新たな道をつくっていかねばならない







＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

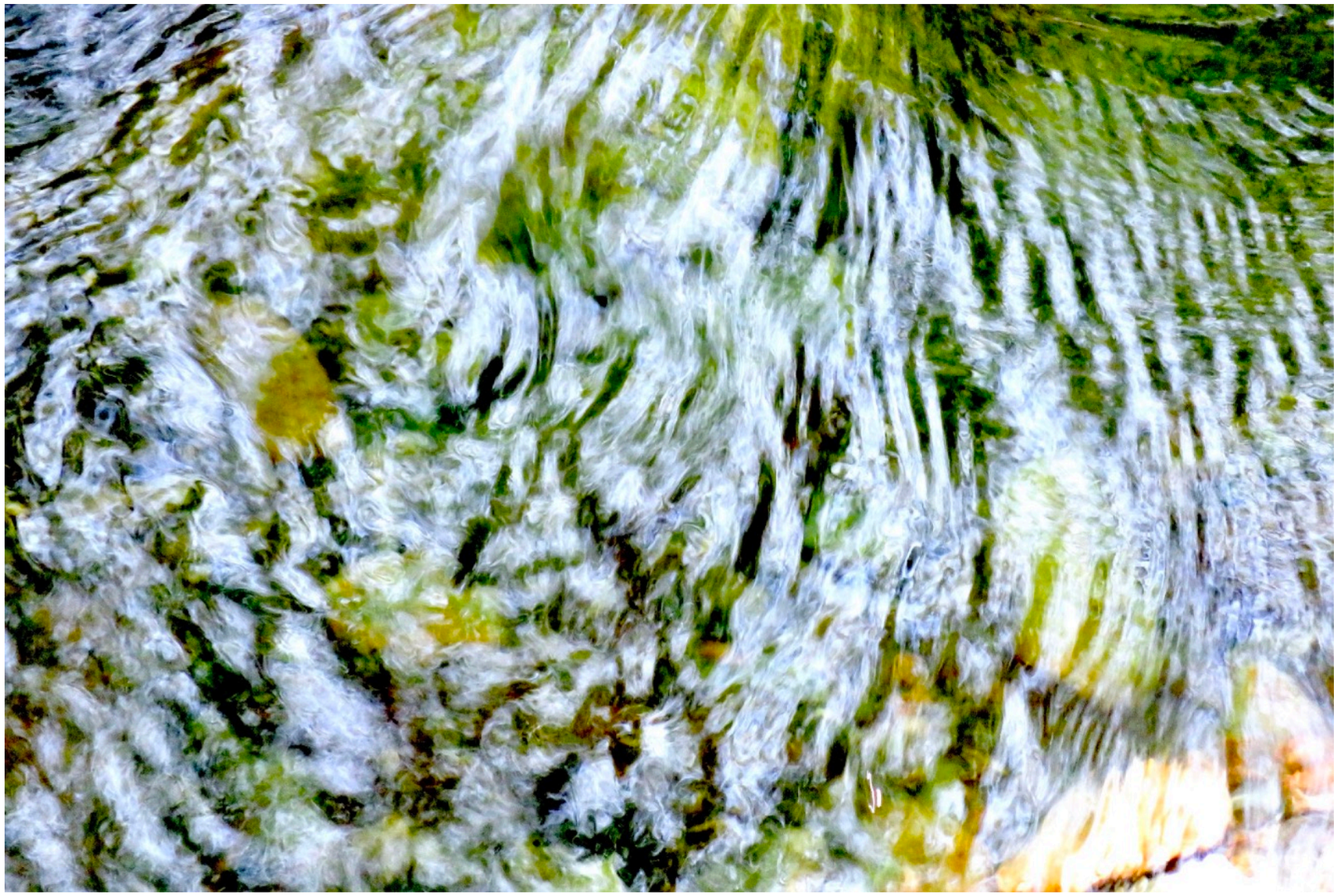
☆photopos-3579　2024.6.26

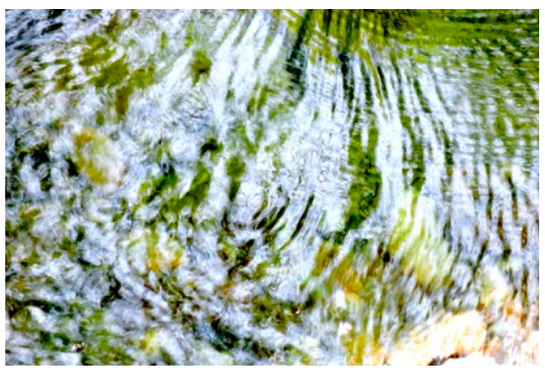
衝動は唐突に訪れる
どこかしらないところから
湧き上がる渇きのように

時代はつくられてゆく
人々の衝動とともに
ときに自由を求め
ときに自由さえ犠牲にして

衝動とともに
忘れられたものも
記憶の深みからあらわれ
失われたものも
姿を変えて甦るだろう

わたしもまた
生きてゆかねばならない
時代の衝動に追われ
ときに自由を求め
ときに自由さえ犠牲にして





＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3580　2024.6.27

だれかであっても
だれかにはならないでいられる

役割があっても
役割にはならないでいられる

いつであっても
いつもでいられる

どこにいても
どこにでもいられる

彼方に向かっていても
いまここにいられる

動いていても
動かないでいられる

旅をしていても
旅をしないでいられる

知っていても
知らないでいられる

そんな夢を生きられないか

＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3581　2024.6.28

ひとが
笑いを
なくしたら

神々はもう
訪れなくなるだろう

神々が
笑いをなくしたら

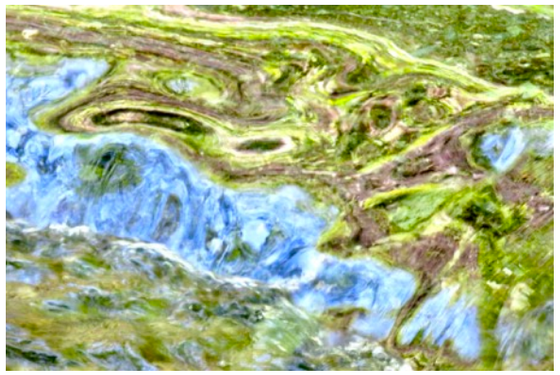
ひとはもう
祈らなくなるだろう

言葉が
笑いを
なくしたら

はひふへほさえ
生きた力をなくすだろう

わたしが
笑いを
なくしたら

わたしはもう
わたしではなくなるだろう



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3582　2024.6.29

意味がなければ
生きられないが
意味に縛られると窮屈だ

　ノンセンスの自由へ！

言葉がなければ
語ることはできないが
語らせることは暴力になる

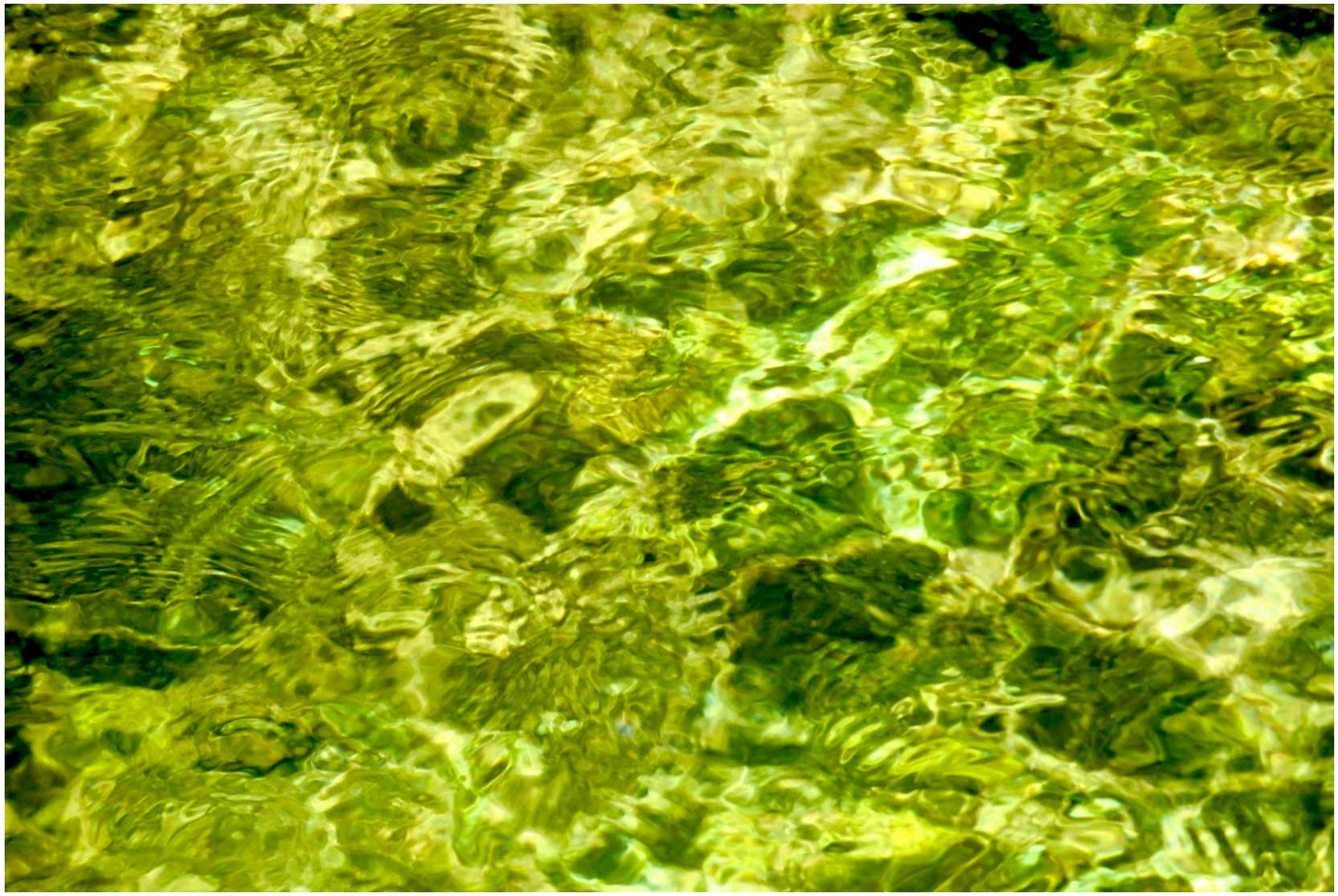
　沈黙という花を捧げて！

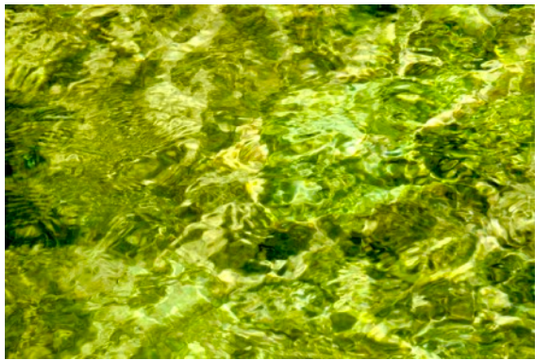
論理がなければ
矛盾に気づけないが
論理のトートロジーからは逃れられない

　論理からのエクソダス！

知ることは力になるが
知らないことを知ることは
知ることの外へ導いてくれる

　無知の深みへ！





＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3583　2024.6.30

真理を求める者よ

真理の言葉は
真理の内に閉じられてはいないか

言葉の真理こそ
真理からの自由を開示してゆく！

詩を求める者よ

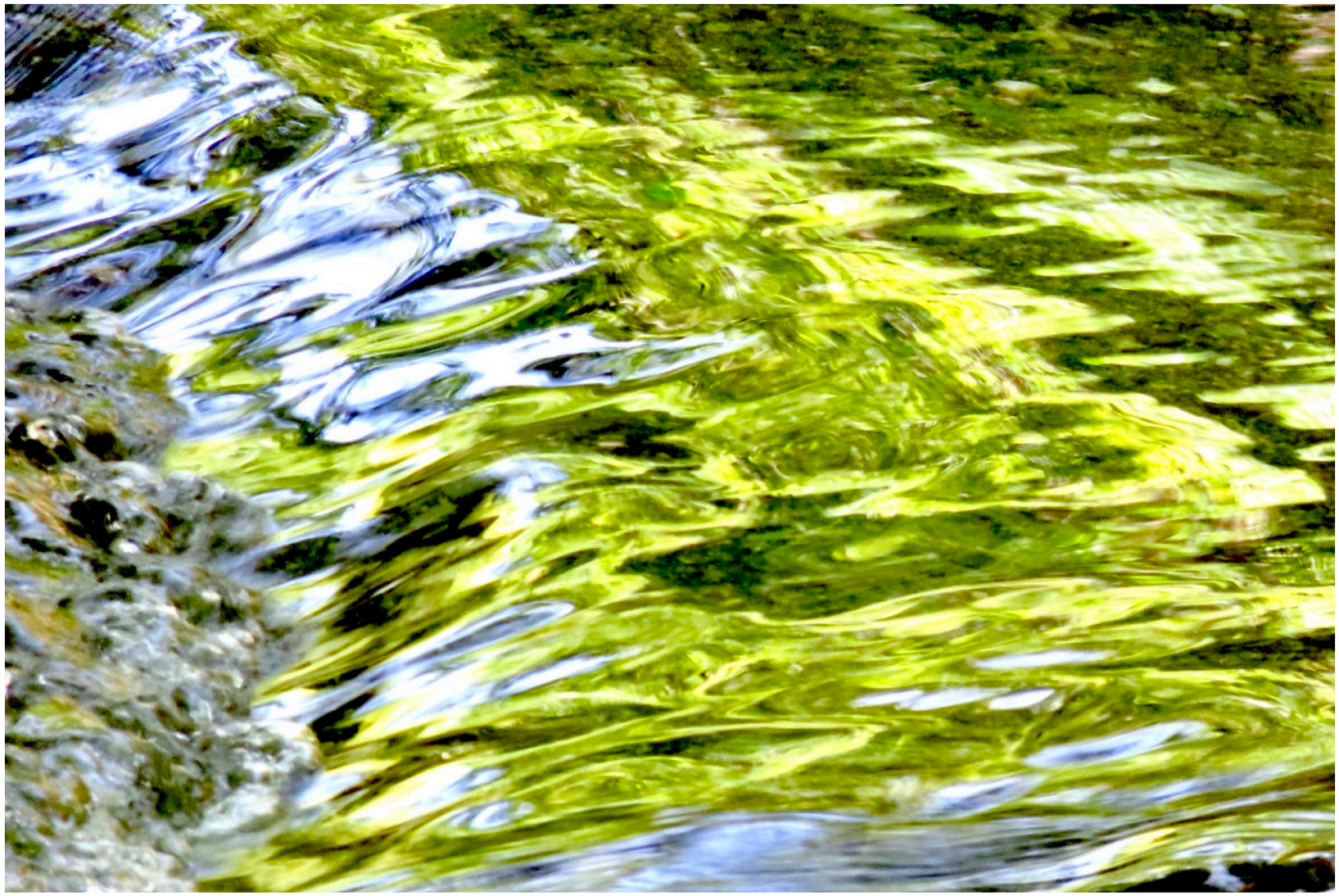
「私」に閉じられた言葉は
自己撞着に陥ってしまわないか

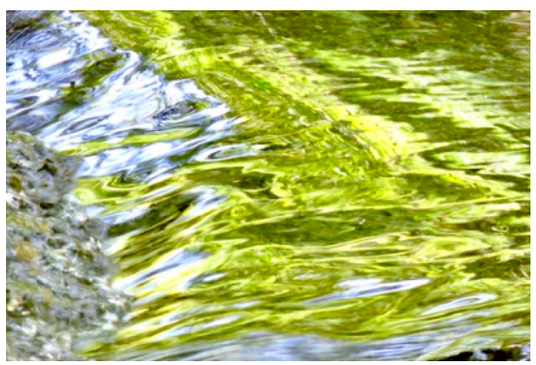
未知を求める言葉こそ
創造の世界へと飛翔してゆく！

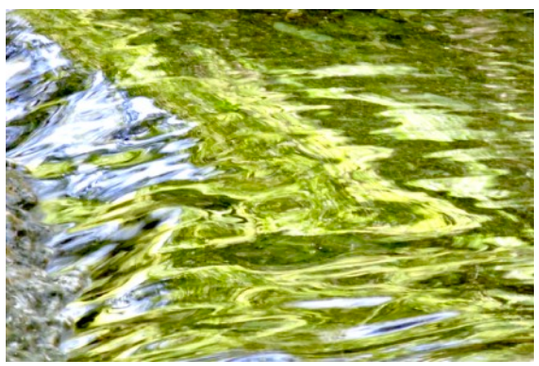
知を愛する者よ

与えられた言葉は
概念の奴隷になってはいないか

新たな領野へと向かう言葉こそ
その種からまだ見ぬ花を咲かせてゆく！







＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3584　2024.7.1

なにかが違う！
そう感じたときは

だれにも
気づかれないように
アナーキーで
小さなレジスタンスを試みる

縦のものを
横にしてみる

上のものを
下にしてみる

右から左を
左から右にしてみる

四歩で歩くところを
三歩で歩いてみる

手の指のかわりに
足の指を使ってみる

３０秒間息を止めて
世界を見まわしてみる

ひとりで
いないいないばあをしてみる

「こ」「た」「え」の文字を使わずに
文章を書いてみる

そうして
それでも
変わらないでいるように見える世界に
少しだけ絶望してみる

＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3585　2024.7.2

光は
闇に囲まれているが
闇の世界を知らない

知は
無知に囲まれているが
無知の世界を知らない

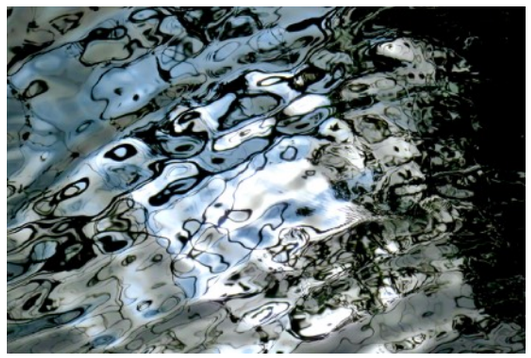
論理は
矛盾に囲まれているが
矛盾の世界を知らない

答えは
問いに囲まれているが
問いの世界を知らない

センスは
ノンセンスに囲まれているが
ノンセンスの世界を知らない

時は
永遠に囲まれているが
永遠の世界を知らない

私は
他者に囲まれているが
他者の世界を知らない



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3586　2024.7.3

君たちはどう生きるか

賢すぎると
じぶんの無知が見えなくなる

求めるものが多すぎると
無力感に苛まれてしまう

ひとを気にしすぎると
じぶんのほんとうが見えなくなる

頑固すぎると
じぶんを閉じ込めてしまう

人に勝れば嫉妬され
人に劣れば馬鹿にされる

有能になると酷使され
無能になると等閑にされる

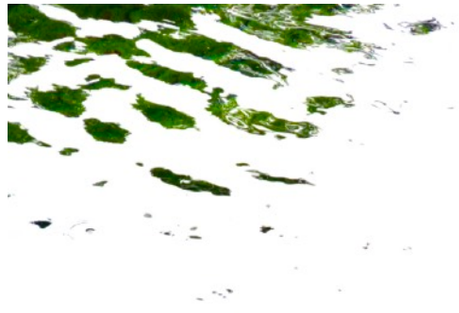
出る杭になると打たれ
使えない杭になると捨てられる

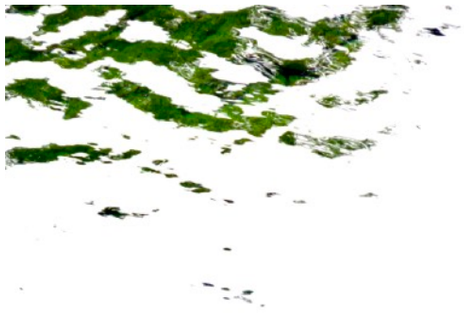
そうして生き難さが昂じると
生きやすいところに行きたくなる

けれどどこへ行っても
生きにくいことがわかったとき

そしてそんな世間をつくったのも
ただのひとだとわかったとき

どう生きるか
その問いへの挑戦がはじまる





＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3587　2024.7.4

歩くためには
からだがいるように

考えるためにも
からだがいる

からだのないところで
つくられた考えは
生きることには使えない

使えないことばで
つくられた論理は
論理の外には出られない

ひとは論理の外で
世界を生きているが

論理のなかにいるとき
見ているのに見えなくなるものがある

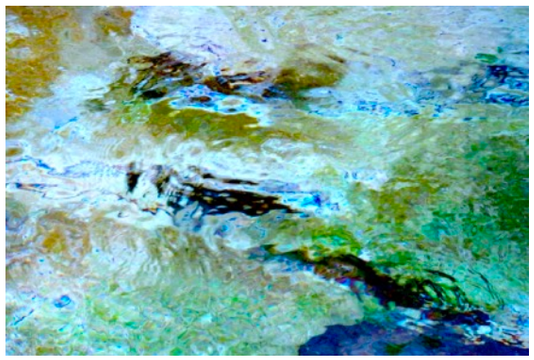
たとえば
好き

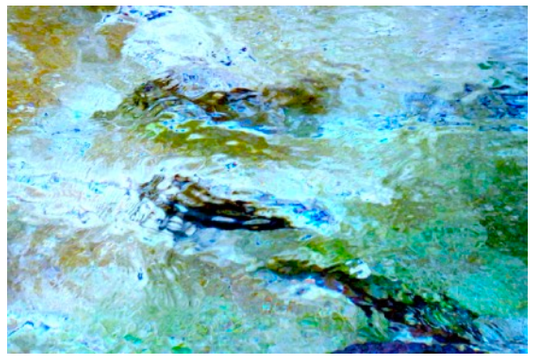
好きには
からだがいる

そしてそれが
ほんとうの好きになるとき
からだの境を超えていくように

からだをもった考えが
ほんとうの考えになるとき

はじめてからだの境を超え
あらたな世界がひらかれてゆく





＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3588　2024.7.5

日常を
冒険する

旅立ちである

日常を
非日常にし
日常という
秘儀に参入する

誘惑があり
迷路があり
影と出会い
戦いがあり
それらの試練を乗り越える

そして変容し
日常へと帰還する

だれにも知られずにいる
その小さな物語を
秘かなじぶんの宝物にする

けれどその宝物を
あらたな冒険のための
地図には使わない

あらたな冒険に
古い地図は邪魔になるから

＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3589　2024.7.6

こころは
かたちに
あらわれるから

変わっていく
かたちのなかに
こころの姿をみる

かたちは
こころを
変えるから

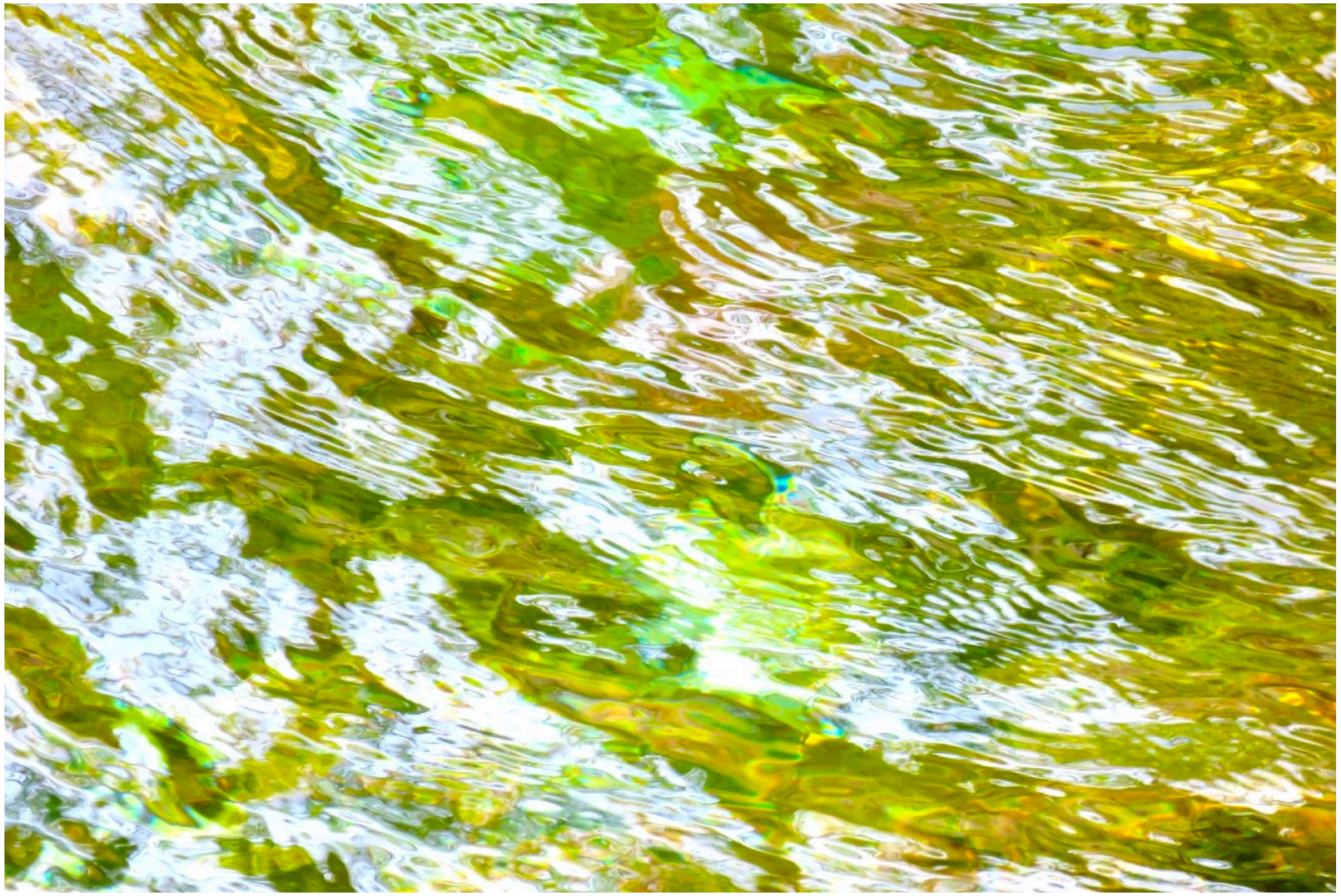
つくる手の
祈りに寄り添う

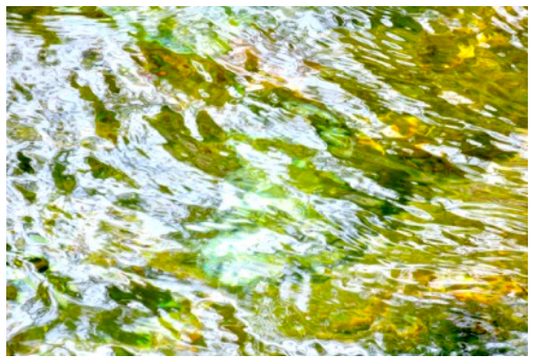
こころは
ことばに
あらわれるから

変わっていく
ことばのなかに
こころの声をきく

ことばは
こころを
変えるから

詠う声の
祈りに寄り添う





＊愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3590　2024.7.7

ひらがなが
やさしいとはかぎらない

よみやすさで
むずかしさが
隠されてしまうから

わかりやすさが
しんせつだとはかぎらない

わかったと思うことで
わからないことが
隠されてしまうから

見えているものを
見ているとはかぎらない

見えていても
見ていないものは
見えなくなるから

おなじことばが
おなじとはかぎらない

おなじとされることで
違いが
わからなくなるから

＊愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3591　2024.7.8

だれにでも
だれにも
できないことがある

だれにでもできることを
だれにでもできる
そんな仕方でできたとしても
そこにあなたはいない

だれにでもできること
それは
そのひとにだけ
できることじゃないから

学ぶとは
だれにでもできることから
だれにもできないことを
見つけだすこと

だれも教えることのできない
あなただけにしか
できないことがある

＊愛媛県松山市・北条にて

☆photopos-3592　2024.7.9

ひとに与えることは
じぶんに与えること
ひとから奪うことは
じぶんから奪われること

与え奪い
与え奪って
私たちは生きざるをえないのだろうか

ひとを愛することは
じぶんを愛すること
ひとを憎むことは
じぶんを憎むこと

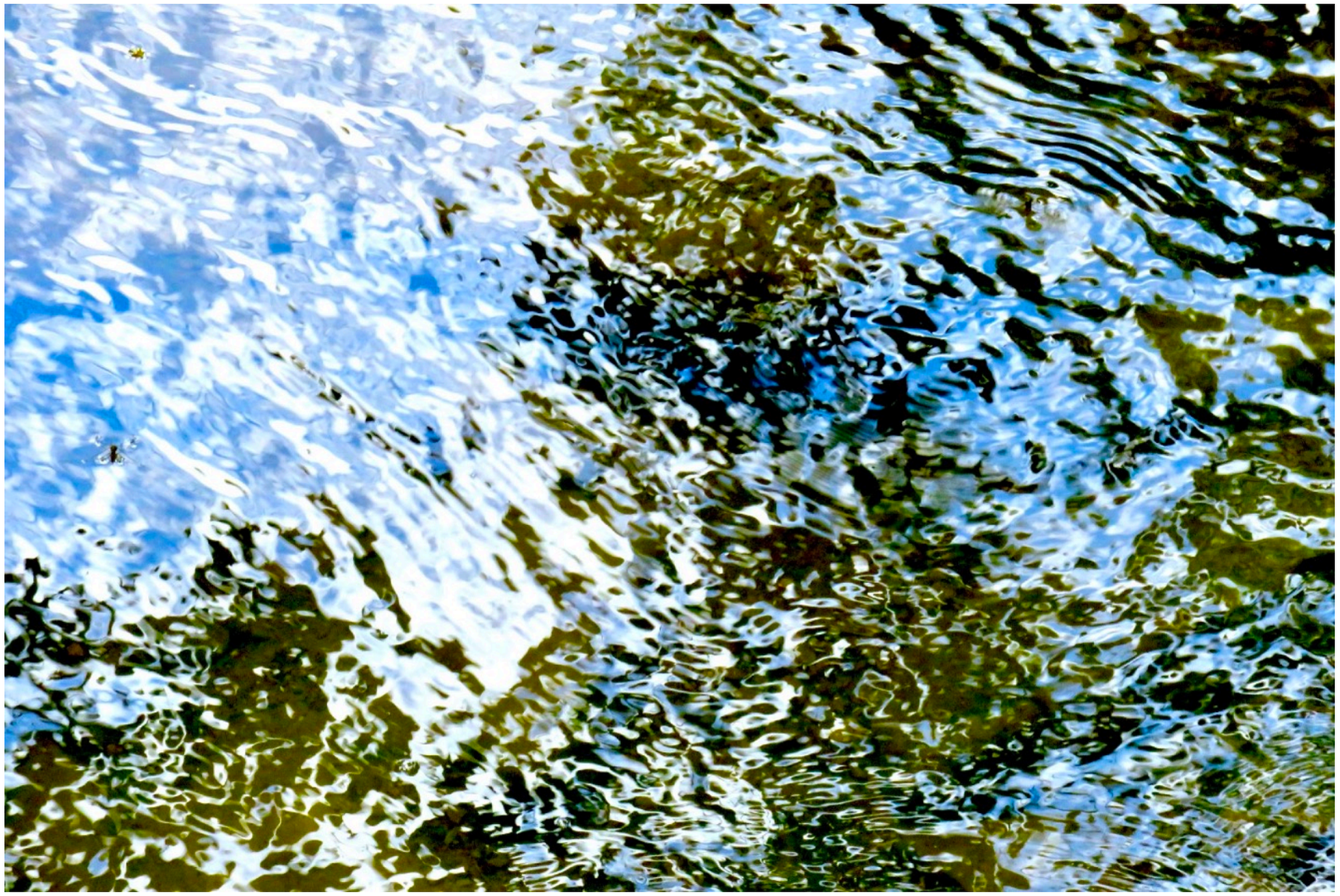
愛し憎み愛し憎んで
私たちは生きざるをえないのだろうか

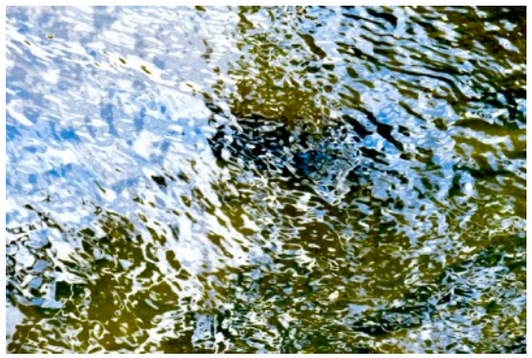
自然を守ることは
じぶんを守ること
自然を壊すことは
じぶんを壊すこと

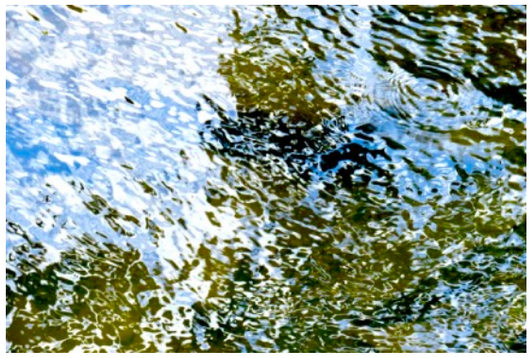
守り壊し守り壊して
私たちは生きざるをえないのか

世界を知ることは
じぶんを知ること
世界を知らずにいることは
じぶんを知らずにいること

知らないということを知るために
私たちはどれほどの試練に
遭わざるをえないのだろうか







＊愛媛県伊予市・えひめ森林公園にて

☆photopos-3593　2024.7.10

心の奥に
悪がある

その悪に
気づけないでいると
じぶんの外に
悪を作り出すようになる

その悪は
じぶんを鏡に映しだした
その姿に外ならないのだが

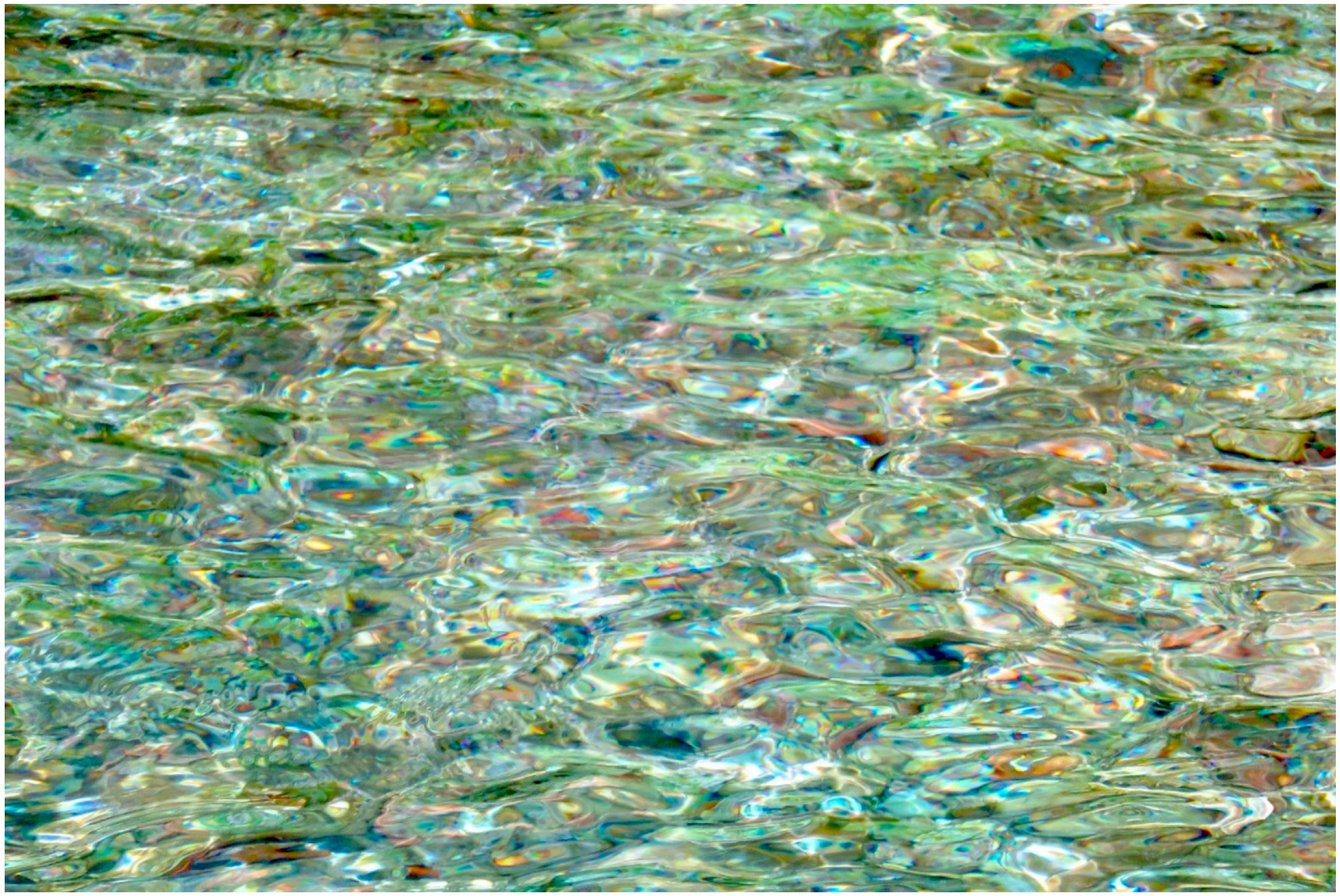
それがじぶんを
攻撃してくるように見えてくると
その悪と戦わなければならなくなる

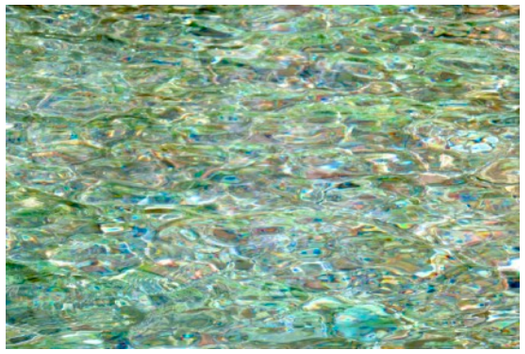
心の奥の悪を
じぶんの悪が映し出されたものだと
認めることができるときまで
戦いは終わらない

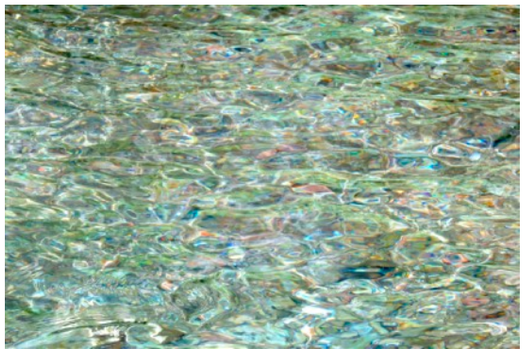
悪は
じぶんの存在を認めよ！
そう迫っているのだ

こんな顔かい
そういって
ふりかえった顔に
驚いてはいけない

その顔は
じぶんの顔なのだから







＊愛媛県内子町・小田深山渓谷にて

☆photopos-3594　2024.7.11

だれもが
影をもっている

光が射せば
からだは影を投げ
さまざまな姿で踊る

だれもが
心にも影をもっている

意識が光になると
心は無意識の影をつくる

けれども
その影をみるのはむずかしい

みえるとしても
その影はひとに投げられ
それをじぶんの影だとは思わない

ときに影は集まり
ほかの影を呑み込みながら
巨大化していく

巨大化した影は
大きな生きものとなり
それに捕らわれると
遁れることはむずかしくなる

遁れるためには
決して見たくはないような
じぶんの影を見なければならない

影はそれをこそ欲しているのだ
たとえ牙を剝き
襲いかかってくるとしても

＊愛媛県伊予市・えひめ森林公園にて

☆photopos-3595　2024.7.12

矛盾を生きる

堕天使こそ
天使へと姿を変えるように

悪魔のなかにこそ
神がいるように

影のなかにこそ
光をみるように

無知のなかにこそ
知を求めるように

沈黙のなかにこそ
言葉が生きているように

他者のなかにこそ
私がいるように

矛盾のなかでこそ
創造されるもののために

＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3596　2024.7.13

ふつうなんて
どこにもないのに
ふつうに
なろうとする

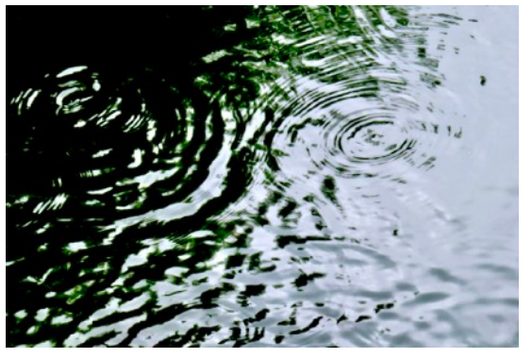
ふつうは
どこからうまれるのだろう

ふつうという
どこにもいない
おばけがひとをばかす

みんななんて
どこにもいないのに
みんな
でいようとする

みんなは
どこからうまれるのだろう

みんなという
だれでもない
のっぺらぼうがふりかえる



＊愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-3597　2024.7.14

私は
だあれ
あいまいみー

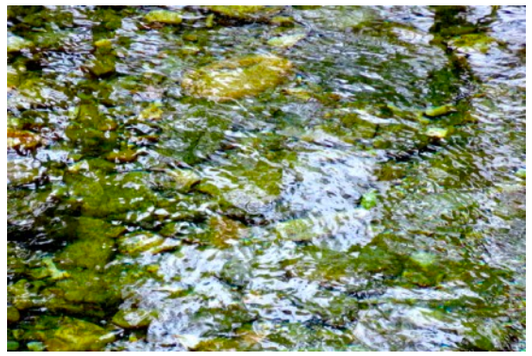
あいまいな
私が
あいまいな
世界を
あいまいに生きている

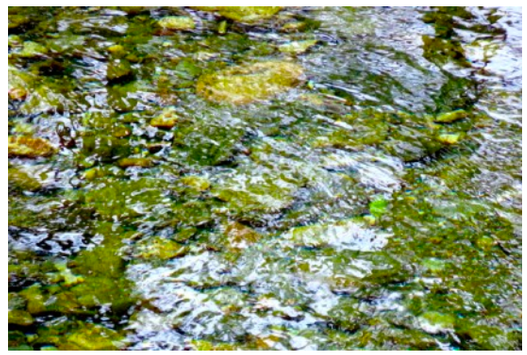
けれど
あいまいな私から
かけがえのない私が
謎のようにあらわれている

あいまいな世界から
かけがえのない世界が
謎のようにあらわれている

デジタル世界が
０と１だからといって
世界は
白と黒でできてはいない
私とあなたも
敵か味方かなんかじゃない

私は
だあれ
あいまいみー





＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3598　2024.7.15

どこかで
なくした
わたしのからだ

わたしの
からだは
どこにある

どこかで
なくした
わたしのこころ

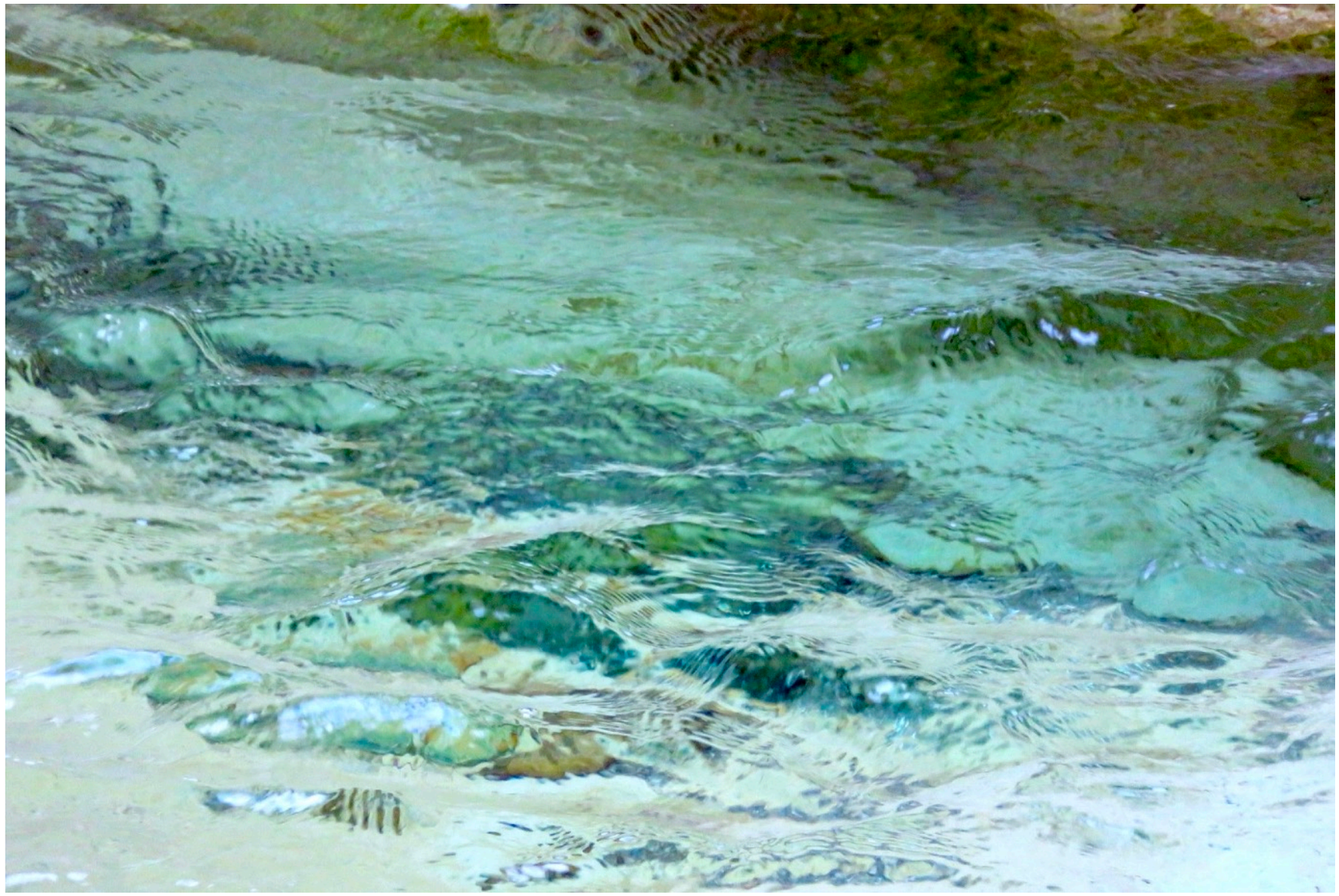
わたしの
こころは
どこにある

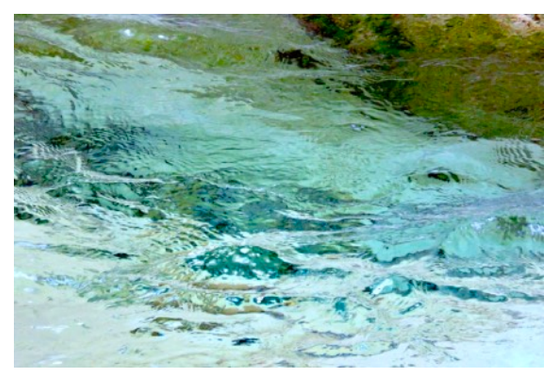
どこかで
わかれた
からだとこころ

むすぶ
ひみつは
どこにある

No-Where
Now-Here

さがすのをやめたとき
みつかりはしないか





＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3599　2024.7.16

しかめられた顔も
むずかしい言葉も
愛には似合わない

イエスは
笑わなかったろうか

アリストテレスは
笑いを説かなかったろうか

愛を生きるとは
私を
世界へと
開くこと

閉じてしまえば
哲学の蠅さえ
壺から出られないから

境を超えた
深みで

笑い
開くのだ

魂の婚礼を
祝して

＊愛媛県久万高原町・面河渓にて

☆photopos-3600　2024.7.17

どうしても
出口が見えないとき

世界は迷路となり
その外は失われている

思考の外も
感情の外も失われ
閉じられている

理論に生きると
理論の外を
見ようとはしなくなるように

閉じているのは
世界ではなく
世界を見るその目なのだ

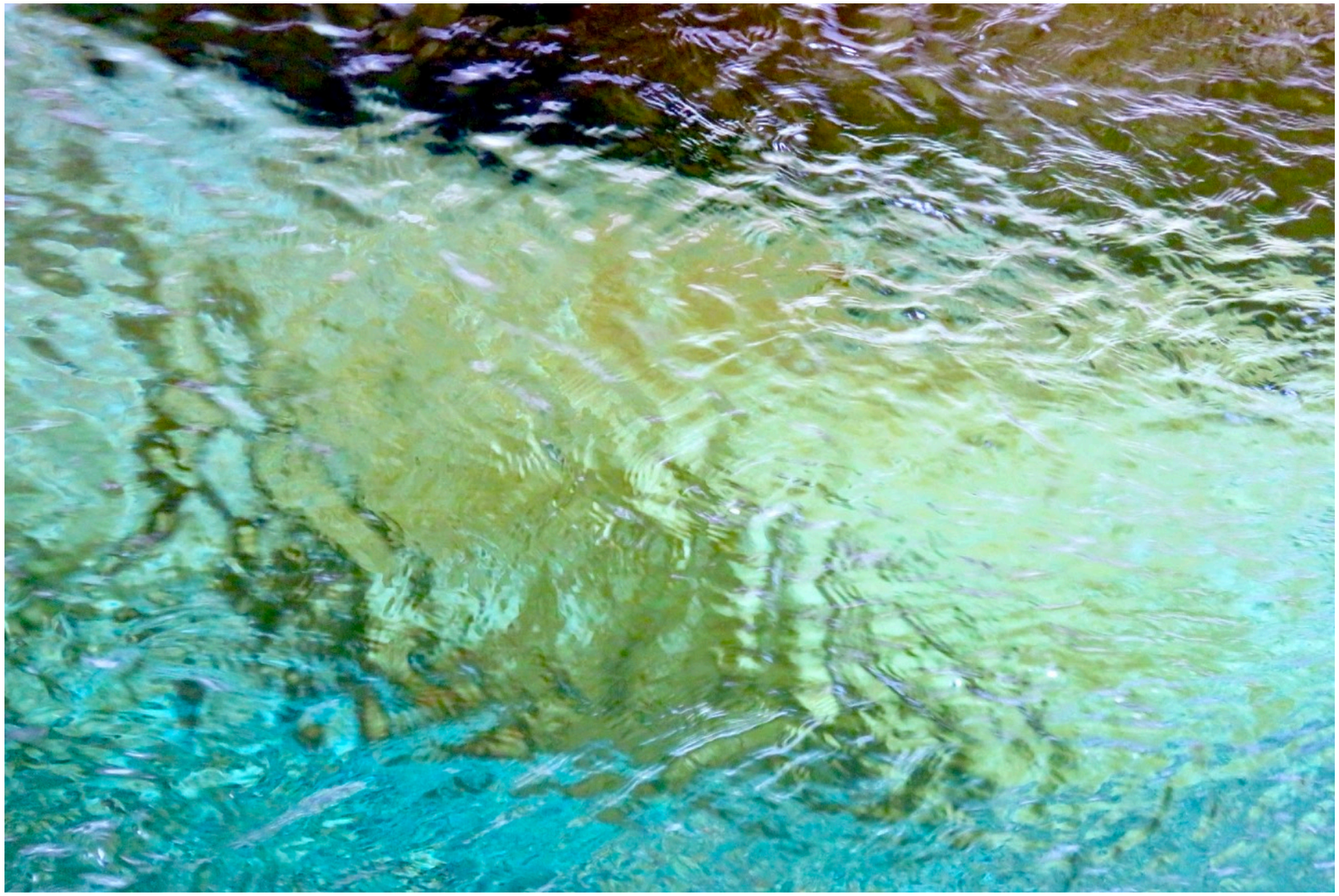
ほんとうは
世界はいつも
ひらかれている
私がいつも
ひらかれているはずであるように

迷路から
出るためには
心の深みから
笑うことだ

存在を
笑いに
変えるほどに

そのとき
祈りとともに
外への境はひらかれる

世界は
いつもあたらしい
ほんらいの私が
いつもあたらしくあるように



＊愛媛県久万高原町・面河渓にて